

學藝新聞

第 16 号

2020年(令和2年)12月24日発行

学校での感染予防対策.....	1
附属中・高等学校 3月からの歩み・・	2・3
輝く人(卒業生)／頑張ってます部活動・・	4・5
国際科.....	6
ボランティアサークル.....	7
学芸スポーツ／自治会.....	8

■発行元



学校法人 大阪学芸

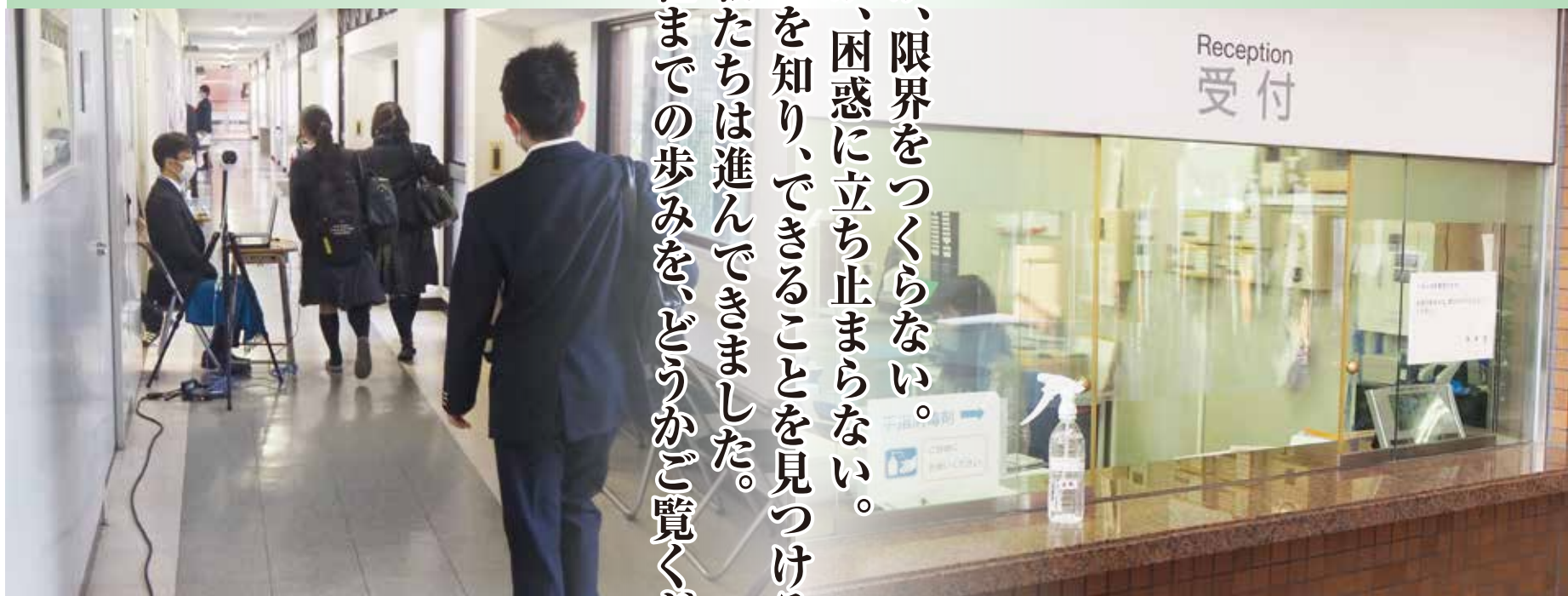
大阪学芸高等学校

大阪学芸高等学校附属中学校

〒558-0003 大阪市住吉区長居1丁目4番15号
TEL.06-6693-6301 FAX.06-6693-5173



制限はあるが、限界をつくらない。
困難はあるが、困惑に立ち止まらない。
できないことを知り、できることを見つける。
そうやって私たちは進んできました。
3月から現在までの歩みを、どうかご覧ください。



大阪学芸高等学校・附属中学校

附属中学校

密を避け校外学習へ出発!



10月16日(金)校外学習

今年度はコロナ禍の中ということもあり、お昼休みに思いっきり体を動かすことや、向かい合ってワイワイとお弁当を食べることができない状況ですが、グラウンドで散歩をしたり、日向ぼっこを楽しんだり、今できる楽しみ方を見つけていました。「のんびりした時間も必要だ」という新たな気づきもあったようです。

校外学習では、万博公園内にある「国立民族学博物館」(みんぱく)に行きました。

1学年と2・3学年は時間差を設けて入館する、同じエリアに密集することがないようにあらかじめ自分たちが見たい・知りたいエリアを決めておくなど、コロナ禍の中でも密を防ぎながら充実した校外学習となるよう努めました。また、事前学習として世界の諸地域の衣食住を主とした文化についての調べ学習を行い、当日は実際の展示物に触れて見識を深め、最終的に1枚のレポートにまとめ上げる試みも同時に行いました。



大阪モノレール万博記念公園前駅の広場に集合し、さあ出発! 間近で見る太陽の塔に大きな歓声があがっていました。

最初の「先住民の宝」と題された特別展では、様々な先住民の歴史や文化を学びました。日々の暮らしに必要な生活用具や祭事に関わる神具など、民族の誇りがうかがえる展示物の数々を見学しました。小刀を一から作り出す映像に見入り、精霊をかたどった彫像を熱心にスケッチする姿が見られました。

一旦館外に出て、博物館前にある「平和のバラ園」で昼食タイム。華やかなバラに囲まれて食べる昼食はいつも以上においしく感じられるようでした。

おなかもいっぱいになったところで、いよいよ本館の展示に向かいます。世界の諸民族の多様な社会や文化が垣間見える展示品に興味津々。本館展示場の総距離は約5kmですが、展示物に魅了さ



れ、すべての地域の展示物について意欲的にメモを取る生徒もいました。

中でも、見るだけではなく、様々な言語の音声付絵本や実際に演奏ができる民族楽器のコーナーでは「いろんな言語があって面白い!」「リズムにあわせて鐘を鳴らすのが楽しい」と、盛り上がっていました。

事後学習として、ホームルームの時間を使い「みんぱくレポート」を仕上げました。調べた情報だけを羅列するのではなく、わかりやすくグラフや図を使い、当時のスケッチを元にイラストを描くなど、一生懸命取り組みました。

今後もウィズコロナの生活様式を求められる中で、校外学習のあり方のひとつを形にすることができたのではないかと考えています。

高校1年生

一人一人、積極的に前向きな気持ちでスタート!

10月16日(金)校外学習

今年度の新入生はコロナ禍の中、入学式も中止となり、何から何まで異例の新生活・新学期となってしまいました。なかなか登校ができず、先行きも不透明な中、生徒たちには不安を抱かせてしまったことと思います。しかし、6月から徐々に授業が始まり、登校してくる生徒たちの様子を見てみると、前向きな気持ちで授業に取り組み、やっと会えたクラスメイトとも感染防止対策を考えながら積極的にコミュニケーションをとる姿が見受けられました。登校できなかった4・5月についても、しっかりと課題をこなし、授業開始に備えてくれました。2学期に入ってもモチベーションをしっかりと保ち、次年度のコース選択を意識しつつ、進路探究に励んでいます。

多くの行事が中止になる中、去る10月16日(金)に校外学習が実施されました。感染防止に最大限の注意を払い、午前中のみ・複数コースに分かれての実施となりました。1年生にとっては初めての学校行事であり、多くの生徒が楽しみにしていたようです。「大阪市立科学館コース」「海遊館コース」「大阪城・歴史博物館コース」「天王寺動物園・慶沢園・茶臼山コース」「カップヌードルミュージアムコース」

五月山公園・カップヌードルミュージアムコース



ムコース」「服部緑地・ダスキンミュージアムコース」の6コースに分かれ、少人数で編成した各班が希望するコースに参加する形で行いました。

当日は晴天に恵まれ、気持ちのいい秋晴れの中、いずれのコース・班にとっても充実した校外学習になりました。初めての班活動ながら、それぞれの班で協力し集団行動の大切さを考え、大阪とい

大阪歴史博物館・大阪城コース



う身近な街の魅力を再発見する機会になったのではないかと思います。普段見ることのない、クラスメイトの新たな一面に触れ、より友情を深めることのできた校外学習であったのではないのでしょうか。今回の経験を今後に活かし、よりよい学校生活に繋げていくことを願っています。

海遊館コース



慶沢園・茶臼山・天王寺動物園コース



大阪市立科学館コース



服部緑地・ダスキンミュージアムコース



高 校 2 年 生

今できること、できる方法を模索し 日々成長!!

10月16日(金)校内・校外学習

柔道整備・鍼灸

日本文化を広める

日本の農を考える



一斉休校措置に伴い、授業もホームルーム活動もオンラインで始まった2学年。期待の修学旅行も予定通りの催行は叶いませんでした。しかし、在宅期間中、家事のいくつかを担ったり、筋トレに励んだり、自己の進路についてじっくりと考えたり、学力向上について教員にオンライン相談を試みたりなど、今までやらずにいたことを手がけようとする様子がうかがえました。出来なくなったことに直面して、時には憤慨し、時には落胆しながらも、出来ること、出来る方法を模索しながら進む姿に、成長を感じ、うれしい限りでした。

学校再開後も、さまざまな制限を受ける中で、生徒たちは勉学や部活動などに励みました。

そして、今年度の行事として初めて実施できた校外

学習。高校2年生は総合探究も兼ねて32の講座を設定し、校内・校外に分かれての実施となりました。人生100年といわれる時代、未来に向けてよりよく生きるために、各自の興味・関心に気付くきっかけを作り、入りたい学校・学び研究したい学問を追究し、キャリアデザイン力を育む意識を養う行事とすることを目的としました。

校内では、人文科学・社会科学・自然科学の各領域から各界で活躍されている方々や大学教員の方々にお越しいただき、伝統文化や言語について考えたり、現代社会の抱える問題を知り解決に向けての方法を議論したり、地元農作物の歴史を学んでそのブランド名を検討したり、と多彩な活動に取り組みました。

校外では、3つの講座を開設しました。大阪大学を訪れ、ドローンを用いたワークショップを経験する講座、道修町調剤薬局を訪れ、現場を見学する講座、河南町

歴史

文学

大阪大学で学んでみよう



SDGs「水」

SDGsカードゲーム

河南町と考える苺ブランド



薬剤師体験

外国語



に出掛けて稲作農家の指導のもと稲刈り体験をする中で、日本の農の現状と問題を考える講座。いずれの講座においても直接の見聞と経験に真剣に取り組みました。

今回出会った方々とは、まさに一期一会の縁です。生徒たちの今後の人生のどこかで、この縁を活かしてほしいと願っています。

高 校 3 年 生

様々な困難を乗り越え、入試に挑む!!

変えざるを得なかった生活スタイルと変容する2021年度入試など、様々な困難を乗り越えながら3学年は歩みを進めています。

①大学別オンライン説明会
(7月下旬～8月初旬)

新型コロナウイルスの影響で各大学・短期大学・専門学校ではオープンキャンパスが実施されず、例年であれば梅田や難波・天王寺などで開かれるブース形式の入試説明会も開かれませんでした。そこで午前中授業期間(7月)や夏期講習期間(8月)の午後を利用して、テレビ・WEB会議アプリ「Zoom」を利用した大学別のオンライン説明会を実施しました。

生徒は参加を希望する説明会のZoomIDを受け取り、説明会が実施される日時に合わせて、校内や自宅でZoomにログインします。すると、大学の入試担当者から本校生徒に向けて配信された説明を視聴でき、チャットやビデオ通話で質問することもできるという仕組みでした。

事前の準備や当日の進行を株式会社日本ドリコムにもお手伝いいただき、大学・短期大学35校・専門学校7校の参加、のべ52回の説明会をスムーズに実施することができました。なかには、本校から進学した生徒の就職状況をスライドで提示しながら説明を進めてくださった大学もありました。

3学年生徒の80%超がこの説明会に参加しました。入試に関する情報がなかなか入手できない環境のなか、画面越しではあるものの、求めている情報をライブで入手できる絶好の機会となりました。以下は参加した生徒の感想から抜粋したものです。



○大阪教育大学の説明は何度も行って聞いたりしていたが、「分数をどのように生徒に教えるか」「何がきっかけで先生になりたいと思ったか」などという質問から色々考える場もあった。そしてそれらを考えた上で、改めて大教大に行きたいと思った。(大阪教育大学)

○パンフレットとスライドを使ったコンパクトな説明でとても分かりやすかった。(同志社大学)

○聞きたいことを先にまとめてくださっていたので、よく理解できた。(立命館大学)

○他学部の勉強ができること、入試の日程が多く選択肢が広いことが魅力的だと思った。(関西学院大学)

○入試説明を聞いて、入試問題の概要や入試方式がどのようになっているのかを理解することができた。この説明会でさらに行きたい気持ちが強まった。(関西大学)

○キャンパスが滋賀県にあるという点から、大阪からのアクセスなども説明して下さったので興味を持った。また、キャンパスの雰囲気にも惹かれた。(龍谷大学)

○とても分かりやすかった。特に資料に書いていない細かい情報を提示してくださったのがよかった。(龍谷大学)

○入試スケジュールが細かく説明されていてわかりやすかった。入試の対策も再検討できた。(近畿大学)

○入試方式がたくさんあってどれにするか考えないといけないと思った。(近畿大学)

○各学部やキャンパスの丁寧な説明で大学の魅力が伝わった。(京都産業大学)

○今までは女子大学に行くことを考えていなかったのだが、説明を聞いて女子大学もいいなと思った。資料を拝見し、校内の設備がとてもきちんとしていて、学部も学びたい分野があることが分かり、魅力を感じた。(武庫川女子大学)

○英語を学ぶだけではなく英語を使っていろいろなことを学ぶというのが魅力的だった。しかし、英語を本当に好きで得意でなければこの大学で4年間を過ごすのは厳しいと思った。(関西外国語大学)

○コロナウイルスなどの影響で変更になった最新の情報を知ることができた。(摂南大学)

○受験料のことなども詳しく説明して下さったおかげで、今まで目をつけることができていなかったことまで知ることができた。オープンキャンパスに行けなくても、自分のやりたいことが出来る環境であることがわかったので興味を持った。(摂南大学)

○公募制推薦入試について詳しく聞くことができて良かった。資格の評価も詳しく載っていて、非常に参考になった。(摂南大学)

○入試方法を詳しく説明していただいたので、自分に有利な入試方法がわかった。また、国家試験合格率や就職率が高いと聞き、畿央大学に行きたいという意欲がさらに湧いた。(畿央大学)

○入試について、ボーダーラインをパーセンテージではっきりと示していただいたのが、ためになると思った。また、複数の学部を同時に受験するメリットの説明も分かりやすく、納得できたのでありがたかった。(大和大学・白鳳短期大学)

○よく分からず不安だったことも細かく説明してくださり、分かりやすかった。(大阪人間科学大学)

○短い時間の中で、丁寧に大学紹介をしていただきとても分かりやすかった。各学科の特徴・入試の手順や学費について特に詳しく聞くことができてよかった。(大阪芸術大学)

○私はオープンキャンパスに行ったことがあるので、知っていることも多かったが、最後にこちらからの質問も丁寧に聞いてくださり、この学校のガイダンスを選んで良かったと思った。(ECC国際外語専門学校)

②PTA3学年懇談会(8月1日)

まず進路指導部長より、2020年度入試の結果や今年の3年生の志望動向などから、2021年度入試のポイントについての分析が行われました。その後学年主任より、受験生との接し方について3つの視点から話をしました。

1つ目の視点は、受験生を「大学入試を戦うアスリート」として捉えてみたとき、保護者の果たすことのできる役割は何かというものです。ここでのポイントは「アスリート・ファースト」。つまり、進路獲得は生徒自身が行うものであるということです。したがって、保護者の方々の果たすことのできる役割は、カウンセラーとして精神面に気を配りながら相談に乗り、管理栄養士として食事・栄養・リフレッシュの管理を行い、トレーナーとして体調、とくに睡眠時間に注視し、マネージャーとして受験スケジュールを把握することです。さらに、スポンサーとして受験料や入学金の準備を進めつつ、サポーターとして一番近くで応援することです。ただし、「アスリート」である以前に家族の一員なので、家庭で特別扱いすることなく共に進んでいってほしいと思います。

2つ目の視点は、受験生にどのように頑張らせるかというものです。頑張してほしいという気持ちから、「頑張れ」「頑張ってる?」「もっと頑張れなさい」と声をかけてしまいがちですが、生徒は生徒なりに頑張っています。生徒なりに、というところが、周囲の大人から見たら歯がゆい部分にはなりますが、頑張っている人物にさらに頑張れと声をかけてしまうと、自分は頑張っていると思われていないと受け取られてしまいます。しかも相手は受験生。周りも頑張っている状況でなかなか偏差値の上まらない不安を抱えながら、まだ経験したことのない大学入試に立ち向かっているのです。

そのような不安を少しでも和らげるためには、まずは現時点での頑張りを認めた上で、どれだけ頑張ればよいのかを「見える化」することです。模擬試験の結果を見ると、アルファベットで示された判定にどうしても目が

行きますが、その判定のすぐ近くに「あと何点」と書かれている部分があります。この「何点」を、私立大学であれば受験科目数の3で、国公立大学であれば受験科目数の7で割ってみると、1教科あたりあと何点・あと何問の上乗せが必要なのかが見えてきます。そして、この1教科あたりの必要な点数や正解数は、そこまで困難な数字ではないことに気づけます。このように、どれだけ頑張ればよいのか具体的に覚えてくれば、ポジティブな気持ちで受験勉強に励むこともできるはずです。

3つ目の視点は、大学入試は人生の通過点だということです。大学入試を終えたあとも、生徒たちの人生はまだ続きます。だから、大学入試を通じて、合格という結果と併せて、たとえばスケジュール管理やメンタルコントロールといった、のちの人生で必要となる技能を身につけてほしいと考えます。換言すれば、大学入試は人生のスキルを身につける最大で最良のチャンスです。生徒たちがこのチャンスを最大限に活かすことができるような接し方を、周囲の大人たちは心がけなくてはならないと思います。

ただ、受験生といえども高校生です。例年、受験勉強があるから、入試が近いからといって、欠席や遅刻の多くなる生徒もいます。しかし、こうした欠席や遅刻はかえって生活のリズムを崩し、体調面でも精神面でも良い効果が出ません。高校生である以上、高校中心の生活を維持することが大切であると最後にお伝えして、学年主任からの話を終えました。

学年懇談会のあとは各教室で学級懇談会となり、より具体的な受験勉強の取り組み方や夏休みの過ごし方について、担任との意見交換が行われました。

③校外学習(10月16日)

堺市の国際障害者交流センター(ビッグ・アイ)において、吉本興業所属のタレントによるステージを鑑賞しました。感染予防対策として、座席を1席ずつ空けて着席し、マスクを着用しての鑑賞となりました。タレントはフースーヤ・からし蓮根・もりやすバンバンビガロの3組でした。まず若手コンビのフースーヤが、勢いのあるステージで雰囲気盛り上げました。2番手のからし蓮根のお二人は、M-1グランプリ決勝進出の実力を存分に発揮し、会場を笑いの渦に巻き込んでいきました。最後のもりやすバンバンビガロは、生徒との掛け合いも交えながら様々な大道芸を披露しました。その後、3組のサインが書かれた色紙などをめぐり、生徒全員でのジャンケン大会がタレントの進行によって行われ、会場は大いに盛り上がりました。約70分のステージを鑑賞した生徒たちは、明るい表情で会場を後にしました。第2学期中間考査が終わり、これから大学入試が本格的に始まっていくという時期に、生徒たちにとって実に「オモロイ」気分転換になりました。





有名選手! 学芸高校卒業 セレッソ大阪の3選手来校!!



西本 雅崇 選手



©CEREZO OSAKA



©CEREZO OSAKA

2015年3月 大阪学芸高等学校 卒業

セレッソ大阪 所属/ポジション: MF

喜田 陽 選手



©CEREZO OSAKA



©CEREZO OSAKA

2019年3月 大阪学芸高等学校 卒業

セレッソ大阪 所属/ポジション: MF

藤尾 翔太 選手



©CEREZO OSAKA



©CEREZO OSAKA

2020年3月 大阪学芸高等学校 卒業

セレッソ大阪 所属/ポジション: FW

セレッソ
企画

セレッソ大阪 オンラインファン感謝デー

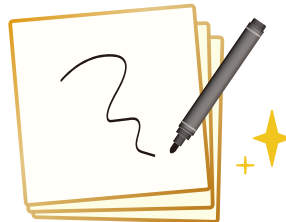
森松校長と一緒に校内を巡り、懐かしさを感じながら恩師との対談をしていただきました。

大阪学芸高等学校では2010年度(平成22年度)特技コース創設時よりセレッソ大阪U-18在籍選手を生徒として受け入れてきました。卒業生はさまざまな分野で高い評価を受けています。

10月19日(月)、それらの卒業生の中からプロサッカー選手として活躍中の西本雅崇(にしもと まさたか)さん、喜田陽(きだ ひなた)さん、藤尾翔太(ふじお しょうた)さんが本校を訪れました。これはセレッソ企画「セレッソ大阪オンラインファン感謝デー」の収録として行われたもので、Jリーグリポーター・池田愛恵里さんが来校、司会進行を勤めてくださいました。当日は森松浩毅校長と一緒に、校舎を巡りながら高校生時代を振り返り、そののち教室にて恩師らと思い出を語るひとときを持ちました。

本館玄関ホールにて

全員フェイスシールドを着け、校舎巡りスタート。早速、正面に飾られたセレッソユニフォームとサイン色紙に注目が集まります。西本選手のサインも飾られており、後輩ふたりからの羨望発言も飛び出しました。「今後(サインは)増えてくるなあ、きっと。」という西本選手の言葉に、自身の努力と活躍を受け継いでいくであろう後輩たちへの思いを感じました。



本館玄関ホール



玄関ホール

高校

食堂にて

次の訪れ先が食堂と聞いて、一気にテンションの上がる3選手。新型コロナウイルス感染予防対策の一環として一方向き座席配置等の措置のとられた空間を眺めながら、高校生時代の裏メニュー話に花を咲かせていました。



教室にて

西本選手が高校1年生の時のホームルーム教室に全員入室。ここから恩師らとの対談です。対談に参加したのは、伊藤貴力先生（西本選手 高1・高3担任）・小笹拓先生（喜田選手 高1～高3教科担当、藤尾選手 高3担任）・藤川真也先生（藤尾選手 高2担任）・大浦靖矢先生（西本選手同級生）の4名です。恩師がつぎつぎと教室に入ってくるたび、懐かしさと喜びをはじけさせる選手たち。再会の挨拶を交わしながらふざけたり照れたりを重ねるうちに、どんどん打ち解け、楽しい空間が作られていきました。

担任であった伊藤先生や同級生であった大浦先生との会話から、高校生時代、学業・学校生活全てにおいていかに真面目に取り組んでいたかが披露される西本選手。「文武両道」との絶賛に、驕るどころか「恥ずかしい」と照れる西本選手の謙虚な人柄に、周囲はますます尊敬と親しみの感を増す場面もありました。また、3年間教科担当であった小笹先生から、ムードメーカーで雰囲気作りに尽力していたことが披露される喜田選手。他者の気持ちを推し量り、良い方向をさりげなく気づかせることのできる喜田選手の周りには、いつもひとが寄り、結果、自然と笑顔の中心となっていたとのこと。そして、担任であった藤川先生



から、「何をやっても凄く出来、しかも手を抜かず要所を押さえ極めてくる」と評された藤尾選手。セレッソ大阪U-18の大先輩でもある藤川先生は、自身の思い出も交えながら、3選手それぞれの高校生時代から現在に至る活躍を語りました。

高校生時代の思い出が次々と語られ、気付けば時間も経ち、ここで先生方より選手ひとりひとりにサプライズメッセージが読み上げられ、選手からも先生方にプレゼントが贈られました。

この日のこの場で交わされたメッセージに、そしてプレゼント。込められたそれぞれのところが、お互いを励まし勇気づける力となり、活躍と成功につながることを願っています。



女子サッカー部 2年連続皇后杯全国大会 出場決定!!

今年度の女子サッカー部は、コロナ禍の影響から、通常授業が再開された6月15日(月)より新チーム始動となりました。約3ヵ月もの活動休止期間を経てグラウンドに戻ってきた選手たちの表情は明るく、やっとサッカーができる嬉しそうです。再開より1ヵ月後に始まる「第42回皇后杯JFA全日本女子サッカー選手権大会」(以下、皇后杯)に向け、監督・コーチの指導の下、始めは暑熱順化、体力回復に力を入れ、少しずつ体を戻していきました。試合の1週間前には、戦術練習ができるまで選手たちのコンディションは整い、初戦の和泉テクノ戦では、カテゴリーが上の相手にも関わ

らず、80分間走り切り、見事1-0で勝利を収めました。その後も順調に駒を進め、大阪府大会3位、関西大会3位という結果を残し、2年連続で皇后杯全国大会への出場を決めました。

昨年度、全国3位という創部以来の輝かしい成績を達成した「第28回全日本高校女子サッカー選手権」では、今年度は再び大阪の壁にぶち当たり、大阪府大会3位という結果で幕を閉じてしまいましたが、皇后杯では昨年度果たせなかった「初戦突破」を掲げ、チーム全員で準備を進めています。このコロナ禍の状況においても、対策を講じながら指導してくださ

監督・コーチ、変わらず支えてくださる家族の方、そしてサッカーのできる環境があることへの感謝の気持ちを忘れずに、大舞台でも勝利を収めたいと思います。(2020年11月現在の記事です。)



令和2年度女子サッカー部 大会成績 10/30（金）現在

<第42回皇后杯JFA全日本女子サッカー選手権大会>

●大阪府大会
二回戦 7/19(日) vs 和泉テクノ 1-0
準決勝 7/23(木) vs 大商学園 0-1
3位決定戦 8/2(日) vs FC大阪 3-0

●関西大会
一回戦 9/22(火) vs 聖泉大学 1-1 PK5-4
二回戦 9/27(日) vs C大阪堺ガールズ 1-0
準決勝 10/3(土) vs 大商学園 0-1
3位決定戦 10/4(日) vs 日ノ本学園 2-0
⇒ 関西3位!皇后杯全国大会出場!!

<第28回全日本高校女子サッカー選手権大阪府大会>

二回戦 9/13(日) vs 柴島 12-0
三回戦 9/19(土) vs 汎愛 16-1
決勝リーグ① 9/20(日) vs 大商学園 0-2
決勝リーグ② 9/26(土) vs 大阪桐蔭 0-1
決勝リーグ③ 10/17(土) vs 追手門学院 3-0
⇒ 大阪府3位!!





国際科 ダブルディプロマコース 世界の歴史、文化、民族などを学ぶ!!



Social Studies 11 (1年A組) での 取り組み (夏期講習期間)

今年度の夏に予定していた1年A組のスーク(カナダ)への留学が新型コロナウイルスの影響で延期となりました。その代わりとして、夏期講習にて「Social Studies 11」という授業を行いました。「Social Studies 11」とは英語力向上を第一の目的とし、日本とカナダ、それぞれの文化や歴史、現代社会の違いについて学んでいく授業です。授業最終日には、各グループが授業を通して興味・関心を持ったことを調べてまとめ、英語で発表する機会がありました。培ってきたグローバルな視点から、どのグループも素晴らしい発表を行っていました。

この授業で得た知識や経験を来年度のスーク(カナダ)留学に活かしてほしいと思います。



BC校外学習 (10月9日)

ダブルディプロマコースでは、Social Studiesの授業を通してカナダの先住民について学ぶ機会があります。さらに理解を深めるために、BC校外学習として国立民族学博物館の特別展「先住民の宝」を鑑賞しました。世界中から9つの先住民が紹介されており、生徒たちは各民族の歴史や文化について詳しく学ぶことができました。



オレンジシャツデーの 取り組み (10月13日)

1年A組 ▶

カナダのオレンジシャツデーについて学びました。オレンジシャツデーとは、カナダのプリティッシュ・コロンビア州にあるレジデンシャルスクール (Residential School) と呼ばれる先住民専用の学校に在籍していた先住民の1人Phyllis Webstadさんが、2013年に始めたイベントです。毎年9月30日に「Every Child Matters.」と書かれたオレンジ色のシャツを着て、レジデンシャルスクールで先住民の子供たちが受けてきた差別や迫害のを知り、同じ過ちを繰り返さないよう話し合う機会を作る目的で行われています。

A組の生徒たちは協力しあってオレンジシャツのデザインとポスターを作成しました。



※OGICIS News letter 10月号



国際科B組 カナダ・ニュージーランド 1年間留学レポート!

1年間の
留学で
様々なことを
経験しました



国際科B組は1年間の海外留学をする生徒が在籍するクラスです。2年B組は2020年1月にオタワ(カナダ)あるいはネルソン(ニュージーランド)に向けて出発し、現地の学校に通っています。1年間の留学でしたが、早くも帰国の日が迫ってきました。2020年は新型コロナウイルスに世界中が翻弄され、留学プログラムも大きな影響を受けました。しかし、その中でも生徒たちは努力を続け、困難を乗り越えてきました。今回はそれぞれの現地での様子をレポートします。

OGOPプログラム (カナダ)

2020年1月11日(土)、OGOPプログラムの生徒25名がオタワに出发しました。現地到着後はホストファミリーの家でホームステイをしながら学校に通うことになります。最初の約3週間はYPLS(オタワの教育委員会の系列の語学学校)で英文法学習・ライティング添削などの授業を受けました。

2月に入り、現地の高校での勉強が始まりました。生徒たちはオタワにある6つの高校に分かれて在籍します。学校の授業は選択式で、最初の半年は英語、数学、社会、ダンス、体育、美術などの授業



を中心に選択することで、現地での友人を作りながら学校生活に慣れ、英語力を上げていくことになります。寒さの厳しいカナダですが、チュービングやスノーシューなどウィンタースポーツを楽しみました。また、ショッピングセンターやカフェなどを訪れることもでき、見るものが新鮮な日々でした。生徒たちは行動できる範囲も広がり、現地の雰囲気も味わいながら、少しずつ留学生活に慣れ始めました。また、ホストファミリーとの関係も変わりつつある時期でした。なかなか積極的に話ができない段階から一段上がり、ホストファミリーとの生活にも慣れて会話も少しずつできるようになる生徒も出てきました。

しかし、3月に入り、新型コロナウイルスの影響でロックダウンが行われ、学校もショッピングセンターも全て閉鎖され、街はゴースタウンと化しました。日本では法的な制限をかけずに自粛をお願いするという政府の対応でしたが、カナダでは政府が法的にロックダウンを行うという厳しい対応を取りました。住民の危機感も日本とは異なり、格段に強いと感じました。どちらの政策が正しいと断じることのできる問題ではありませんが、現地でのロックダウンを経験し、どういった対応が望ましいのか生徒達は自分事として真剣に考え、レポートを書いた者もいました。

4月、5月とロックダウンが続く中、6月の学校再開を全員が期待していましたが、カナダ政府の決断は8月末までの休校延長でした。

充実した留学生生活を夢見て努力を重ねていた分、友達とも会えず、家からも出られない状況で過ごす日々は、まだ10代の高校生には過酷なものでした。授業もオンラインで行われていたため、日本への帰国を希望する生徒も出てきました。しかし、ここまで努力して留学に行ったということもあり、最終的には全ての生徒が現地に留まることを決断しました。辛い状況の中でも生徒たちは自分の趣味を見つけたり、ホストファミリーと過ごす時間を意識的に増やしたり、自分なりの英語学習を継続したりと様々な工夫を試みました。結果としてホストファミリーとより仲良くなり、英語が上達したと誉められ、嬉しい経験もできました。

9月に入り、ようやく学校が再開されました。分散登校の形で2日に1回午前中のみの登校となりましたが、テイクアウトのお店なども開き始め、コロナ対策の法律に従いながら外出もできるようになりました。久しぶりに友達と会い、人と直接会うことの尊さにも気付かされました。夏休み期間には、ホストファミリーとキャンプに行ったり、ナイアガラ滝に観光に行ったりして、カナダの自然を満喫することもできました。

雄大な自然に囲まれながら、多民族国家であるカナダで多様な考え方に触れ、またさまざまな苦労した分、人として内面的に成長した留学となりました。この経験を今後の人生に活かしてほしいと思います。

OGNPプログラム (ニュージーランド)

2020年1月22日(水)、OGNPプログラムの4人の生徒がネルソンに向けて出発しました。こちらもホストファミリーの家でホームステイをしながら1年間を過ごします。空港ではホストファミリーが温かく出迎えてくださいました。

ニュージーランドは南半球にあるため、この時期は夏でとても過ごしやすい季節であり、ホストファミリーとピクニックに出かけたり、ショッピングに出かけたりして楽しみました。ネルソンは小さな町なので、週末にはホストファミリーと一緒に出かけた大阪学芸の生徒同士がばったり会うこともありました。

ワイミア高校では留学生を歓迎する式典が開かれました。ワイミア高校はニュージーランドの中でも屈指の学力の高い高校で、世界各国から留学生が学びに来ています。大阪学芸高校の4人の生徒も新しい制服に身を包み、式典に参加しました。式典ではヘインズ学校長がマオリ語(マオリ族の言葉)で歓迎のスピーチをしてくださいました。

いよいよ高校での授業が始まります。準備としてオリエンテーショ

ンが行われ、英語や数学の学力診断テストを受けました。日本の学期とは時期がずれているため、生年月日により、それぞれ2つの学年に分かれて所属することになりました。

2月に入り、本格的に授業が始まりました。授業は選択制で、自分の希望する授業を選ぶことができます。数学やデザイン、おもてなし、科学、社会など、どの授業を選択しても、レベルの高い授業が行われます。まだ慣れない英語での授業ですが、4人の気合は十分で、周りの生徒に後れを取らないよう、必死に取り組みました。日本語の授業もあり、ここでは逆に大阪学芸高校の生徒が活躍します。現地の生徒に日本語を教え、この授業を通して友達も増えました。また、かなり体力的にハードなアウトドアの授業を選択した生徒もいました。アウトドアの授業は時期により内容が異なり、夏期はカヤックに乗っての冒険です。日本では体験できなかった授業を通じ、アウトドアの楽しさに目覚め、次の学期も絶対にアウトドアの授業を取る宣言する者もいました。

世界各国の例にもれず、ニュージーランドも新型コロナウイルスの影響を受けました。街はロックダウンとなり、学校も3月末からオンライン授業となりました。大量の課題が出されましたが、どの生徒も持ち前の真面目さで乗り切りました。ニュージーランドは5月中旬、学校

再開に漕ぎ着けました。同時に街中のお店も感染予防対策を取りながら開き始めました。

その後は順調に学校生活を送り、ハードな行事にも参加しました。ワイミア高校名物のアウトドア行事では、標高2,000mを超える山に登るなど、体力の限界に挑戦する過酷な経験に、心身ともに鍛えられました。

ホストファミリーとの関係も極めて親密な状態で充実した留学生生活を過ごし、ニュージーランドの人たちの優しさに支えられた1年となりました。



OGOP、OGNP共に、帰国までの日々も残り少なくなってきました。生徒たちはここまで、学校での授業でもオンライン授業でもしっかりと取り組んできました。残りの期間もホストファミリーとの時間を大切にしながら、さらに英語力を磨き、無事に帰国することを願っています。

大阪学芸 ボランティア サークル

セレッソサポーターティングマッチ

密を避け少人数で参加!!

ボランティアサークルでは、例年 オフィシャルパートナーであるセレッソ大阪の試合における準備・会場の清掃・運営のお手伝いなどを行っています。また、平成27年からは大阪マラソンに学生ボランティアとして参加しています。しかし、今年度は4月の緊急事態宣言に伴い セレッソ大阪は全試合を延期・中止。11月に開催予定だった大阪マラソンも早々に中止を発表していました。6月からようやく学校が再開されるも、依然として多くの地域でウイルス感染者が増加していく状況の中、全く先の見えない状態のままスタートしました。「例年通りの活動はできないかもしれない」と現状を伝えた上での募集だったにも関わらず、希望者は81名。例年以上に意欲のある生徒たちが集まりました。このままではいけないと思い、何とか彼らに活動の場を設けることはできないかとボランティア担当教員内で意見を出し合い、セレッソ大阪の担当者とも話し合いを続けました。



今年度初の活動はセレッソサポーターティングマッチ

新型コロナウイルス感染予防対策のために中断していたJ1リーグが7月より再開。再開後2試合はリモートマッチ（無観客試合）でしたが、3試合目となる名古屋グランパス戦からようやく5,000人以下の観客収容で実施可能となりました。この日は「大阪学芸サポーターティングマッチ」。本来であれば開会式や吹奏楽部の演奏、ボールパーソンやフラッグベアラーなどに多くの生徒・教員が参加し、一大イベントとなる予定でした。残念ながら観客人数の制限があるため、当日はボランティアサークル生徒のみ、開場前準備のお手伝いで参加することとなりました。

当日はキックオフの2時間前に集合し、前半は「スタジアム内の清掃」と「ソーシャルディスタンステープ（座席間隔確保のため、座れない座席列に貼る白いテープ）の作成」、後半は「受付」と「テープを座席に貼る作業」に分かれて活動を行いました。

生徒たちと一緒に参加して感じたのは、スタッフの方から指示されたことを行うだけでなく、各作業を進めていく中で気付いたことを互いに報告し、自分たちで改善策や効率の良い進め方を考えて実行しようとする生徒がとても多いということでした。お客さんが入場し始めると、スタッフの方も多忙になり、その場でまず生徒達が判断をすることも多くなります。そのような時にも、臨機応変に対応し、分からないことがあればスタッフに質問をするなど、積極的な姿勢が見られました。

今年度からはセレッソ堺レディースの試合にもボランティアとして参加させていただくことになりました。チケットコーナーなど重要な任務も任せられ、生徒たちにとっては本当に貴重な体験となっています。現在、セレッソボランティアは月に約3回のペースで実施しています。密を避けるため、1回の参加人数は10人～12人と制限はありますが、希望者の参加する機会が少しでも増えるように努力しています。

《セレッソボランティアにおけるコロナ対策》

-  少人数実施
-  マスク着用の徹底
-  参加日までの健康観察の記録
-  集合時の検温＋セレッソ指定の健康調査アンケート回答
-  作業はなるべく空気の循環の良い所で行う
-  作業前、作業後の手指消毒



国際ボランティア始動 NEW

グローバル化が進む社会において、異文化を深く理解することや、英語でコミュニケーションをとることが非常に重要視されてきています。ボランティアサークルには、国際コース生徒を含め、英語力の高い生徒が多く在籍しています。彼らの武器である英語力を活かした活動ができるように、公益財団法人 大阪国際交流センターとの提携のもと、今年度から新たに「国際ボランティア」を立ち上げました。

現在、活動が決定している内容は以下の通りです。

◆11月21日(土)「アイハウスde多文化体験2020」

様々な国の方が参加して自国の文化紹介を行いながら交流するという、大阪国際交流センターで年間を通じて一番大きなイベントです。当日の準備や運営のサポートで参加します。

◆11月29日(日)・12月13日(日)・12月20日(日)「英語交流・国際理解教室」

世界にともだちをつくらう！
小学校3～6年生対象のプログラムで、英語でのコミュニケーション能力や国際理解・多文化共生意識を養います。講師役の大阪教育大学インターン生のサポートとして参加します。

現在は、コロナ禍の影響で1回あたりの参加人数が少ない(2～4人)ため、国際コース生徒優先で担当を決めていますが、今後は他校との共同イベントなども検討し、英語に興味のある生徒がより多く参加できるように努めていきたいと考えています。

ボランティア活動保険について NEW

ボランティア活動中の事故や怪我といった「もしものとき」に備えて、今年度からボランティアサークル登録者には活動保険(Aプラン年間300円)の加入を推奨しています。国内におけるボランティア活動中の偶然な事故により、①ボランティア自身がケガをした場合の「傷害保険」、②活動の対象者など他人の身体や財物に損害を与え、法律上の賠償責任を負った場合の「賠償責任保険」の2つの補償がセットになったボランティア専用の保険です。



高校生活で何を経験してきたかを語ることでできる生徒に

2学期に追加募集を行い、現在ボランティアサークルの登録者は112名となりました。いま、社会では、知識・技能・思考力・判断力・表現力に加え、様々な経験や活動を通じて、豊かな人間性をもった学生が求められています。ボランティアサークルの活動を通じて、自ら考えて行動する能力や、様々な変化にも柔軟に対応できる能力を身に付けてほしいと願っています。



〈記念撮影のため、マスクを外しています〉

登録選手

番号	学年	氏名
1	2	伊藤 瑞基
2	2	本守 心翔
3	2	大谷 輝
4	2	岩崎 隼士
5	2	吉田 柊羽
6	2	津田 駿介
7	1	又野 玲音
8	2	渡邊 亮青
9	1	種村 悠
10	1	島田 慶太郎
11	1	西村 稀星
12	1	武田 慶臣
13	1	岩戸 勇樹
14	2	遠藤 優樹

マネージャー

学年	氏名
2	小林 菜々子
2	中瀬 有咲
1	青山 椎菜
1	小川 紅
1	田邊 桃果
1	樋口 萼奈

本年度は新型コロナウイルス感染症の影響で多くの大会が中止になり、3年生は公式戦に出場せずに引退すること余儀なくされました。そのような中で6月中旬になり、ようやく新入部員を迎えて部活動を再開することができました。当初は感染予防対策を取りながら短時間の活動となりましたが、基本的なプレーとコミュニケーションを重視した地道な練習を重ねました。

8月に入り、練習試合を重ねてチームとしての動きの確認を行い、プレーの幅を広げる段階に入りました。8月中旬には昨年度全日本高校選手権大会大阪府予選ベスト4の常翔学園高校における3日間の合同練習試合に参加させていたなどとして、修練を積みましました。強豪校が集まる練習試合であったため、ほとんどが負けゲームでしたが、その時の悔しさから、さらなるレベルアップを目指そうという雰囲気を作ることができました。

9月の全日本高校選手権大会大阪府予選と大阪私学大会は、すべて1部上位のチームとの対戦となり、勝利することができませんでした。

10月はサーブカットやスパイク、ブロック、サープなど、これまでの試合で明らかになった課題を克服するための練習を積み重ねました。この間、時間を見つけて練習の手伝いに来る3年生もあり、1・2年生にとっては大きな励みになりました。

11月に入り、最後の練習試合を行い、試合の1週間前からは短時間の練習で調整を行い、本番に臨むことになりました。その結果、西野田工科高校と桜塚高校に対してともにストレートで勝利し、1部に昇格することができました。引退試合ができなかった3年生の思いを背負い、早くから地道な練習を重ねて、万全な準備をして臨み、その結果は実にうれしいものとなりました。努力のチームに、今後も応援をよろしくお願いいたします。

1部昇格

2試合ストレート勝ち

【試合結果】
2部ゾーン

第二試合
大阪学芸 2 { 25-19 } 0 西野田工科
25-19

第三試合
大阪学芸 2 { 25-10 } 0 桜塚
25-19

最終順位

- ①大阪学芸 ③清水谷
- ②桜塚 ④西野田工科

生徒自治会

玄関ホールにて展示開催

通常の年であれば、6月に体育祭を実施するために、1学期が始まるとすぐにその準備を開始します。まず団構成が決められ、各クラスのクラスTシャツの色が決まり、生徒によるデザインが始まります。体育祭の種目が決まり、各クラスで出場種目を決めます。団ごとの応援団も決まり、応援の練習も5月には始まります。高校3年生学年種目の20人21脚などの練習も始まっています。

ところが、5月末までの休校を余儀なくされ、一連の段取りができず、また会場の丸善インテックアリーナ大阪も閉鎖。6月の予約もキャンセルとなり、体育祭は白紙となってしまいました。

6月に入り、分散登校から学校が再開。中旬から通常登校となりました。社会的状況がどうなるかは不透明ながら、なんとか2学期に体育祭を実施したいの思いから、まずは団分け・クラスTシャツの作成に着手しました。

学校再開からあつという間に第1学期末考査を迎え、十分な時間もない状況でしたが、体育祭原案について検討を続けました。中止が決まった文化祭の「舞台発表」の場を体育祭の中で少し入れる形での実施をしたい。しかし、感染拡大防止を徹底した状態で開催しなければならない。そういう状況の中で、断腸の思いではありましたが、高校3年生だけの体育祭としました。

体育祭・文化祭の開催について検討を続ける中、

「密」「食品」などの要因から、文化祭については通常の形での開催は無理であると判断しました。ただ、映像参加を呼びかけ、クラブ・クラスや有志で映像を作成した場合はそれらを、日程を設定して配信することを決めました。また、文化部やクラスの作品展示については、9月に玄関ホールなどを利用して実施することも決めました。展示期間は約1週間ずつとし、美術部作品展・アニメ漫画同好会作品展・2年6組のフラワーアレンジメント・書道部作品展・クッキング同好会展示・写真部作品展を行うことができました。

なお、映像を作成してくれたクラブ・クラス・有志の作品は、生徒たち各自のタブレットで見ることができるよう配信する予定です。ご期待ください。

生徒自治会選挙について

11月12日(木)に来年度生徒自治会役員選挙が実施されました。コロナの感染拡大防止のため、今年度は立ち会い演説会も放送で行いました。副会長・川崎駿君(高3)の司会進行でスムーズに進み、その後教室にて投票が行われました。放課後、選挙管理委員会による開票作業の結果、候補者全員が信任され、以下の通り来年度生徒自治会役員が決まりました。

・会長	ショウ 英美 (高校2年)
・副会長	藤山 留華 (高校2年)
・副会長	周 夢 (高校2年)
・書記	藤田 みゆ (高校1年)
・書記	川西 佑楽良 (高校1年)
・書記	山下 純佳 (高校1年)
・会計	松原 史妃 (高校1年)
・会計	恵本 茉奈 (高校1年)
・中学校代表	石井 慧 (附属中2年)

